



JAあそだより

平成21年 2月



冬の阿蘇草千里ヶ浜



2009
立春

VOL.43

■今号12ページ主な内容

- 祈願祭・仕事始式
- 熊本県家の光大会
- 各生産部会で総会・出荷査定会
- あそっ子スクール閉校式 ほか

●/▲ 阿蘇農業協同組合

本所 〒869-2612 熊本県阿蘇市一の宮町宮地387-5
TEL 0967-22-6111/FAX 0967-23-1088



「汗を流して取り組もう」
中尾雄二組合長、新年の決意述べる

JA阿蘇は1月6日、多数の役員出席のもと、新年の祈願祭及び仕事始式を本所で開きました。

中尾雄二組合長は「ガソリン価格や自動車産業の決算を見るように、世界的な不況で農業分野も非常に厳しい状況にある。WTOも金融・工業分野の交渉に重点が置かれ、日本農業も特別ではなくなった。今後、農業を継続させるためには、地域を守り農業ができる環境を創り上げ、安定した所得保障ができるように取り組まなければならぬ。いろいろな課題があるが、協同組合の基本に返って組合員のために役職員総力戦で一緒に汗を流して頑張りたい」と、新年の決意を述べました。



「汗を流して取り組もう」
中尾雄二組合長、新年の決意述べる

JA阿蘇は1月6日、多数の役員出席のもと、新年の祈願祭及び仕事始式を本所で開きました。

熊本県家の光大会

「地上普及功労者」の2部門で表彰される



表彰を受ける中尾雄二組合長

「広げよう協同の心、築こう豊かな未来」を大会スローガンに、第56回熊本県家の光大会が1月15日、宇城市ウイングまつばせで開催され、JA阿蘇からの参加者を含めJA女性部員ら700人が参加しました。

オープニングセレモニー：主催者挨拶・米賀祝辞後、表彰に移りました。JA阿蘇はJA熊本中央会の「ちやぐりん特別」、家の光協会の「地上普及功労者表彰」の2部門で表彰され、中尾雄二組合長に表彰状が贈られました。

ちやぐりん読書文全図「ソークール」で
田苗悠華里さんに優良賞

さらに第31回ちやぐりん読書感想文全国コンクールで、JA阿蘇管内の南小国町立市原小学4年田苗悠華里さんの「原爆からよみがえったピアノ」が優良賞に輝き、ステージで表彰状が贈られました。



田苗悠華里さん

家の光記事活用体験発表



高森町の三森伸治さん最優秀賞



表彰を受ける三森伸治さん

続いて、県内JA8人の代表による「家の光記事活用体験発表」が、ただ一人の男性代表者であったJA阿蘇青壮年部盟友の三森伸治さん（高森町）が、ライフプランを立案することで本人をはじめ盟友たちの暮らしや経営を改善し、大きな成果をもたらした地域づくりにも貢献することとなった活動体験「実現する！夢のかたち」を発表。審査の結果、最優秀賞を受賞し、熊本県代表として横浜で開催される全国大会へ出場することが決まりました。

また、記念講演も行われ東京農大教授の小泉武夫先生が「健康と若さを保つ食の知恵」というタイトルで日本食の素晴らしさ、食育の大切さを訴えました。

お歳暮に大好評でした！ 赤土育ちの「自然薯」

J A阿蘇久木野自然薯部会（田所則起部会長）は、12月上旬から自然薯出荷を始めました。同部会は20数年前から自然薯栽培を始め、高品質で粘りのある品質作りを努めて顧客を増やしてきました。現在、生産者は10人で、栽培方法はパイプの中に赤土を入れ、自然に近い状態で栽培を行い安定供給に努めています。

近年では、県内外の消費者からの注文も多くなり、遠くは関東からも注文があつています。特に年末にはお歳暮品として使用され、この自然薯をもらったお客さんからの問い合わせも年々増え、J A担当職員は「確実にリピーターが増えているのを実感している」と話していました。



箱詰め販売された自然薯

ヒゴムラサキの新レシピ誕生 今後はホームページで普及促進



新レシピの審査を行う関係者

高森地区特産の「ヒゴムラサキ」を使った新レシピ審査会が12月2日、高森町総合センターで開かれました。「ヒゴムラサキ」は県育成の品種で5年前から高森地区の特産品として導入され、J A阿蘇南部管農センター管内でも期待の作物です。果肉が大変やわらかく、果物のようにそのまま食べることができ、調理しやすいナスとして年々、市場や消費地の評価は高くなっています。

当日はJ A阿蘇女性部員が調理。審査はベジタル&フルーツマイスター（野菜ソムリエ）の北重統子氏ら12人が当たり、ヒゴムラサキの

特徴を生かして、今以上に普及につながるかと期待される6品の新レシピを選びました。これらの新レシピは、近々開設予定のホームページに掲載の予定です。

地元の食材を生かして 正月料理の講習会



J A阿蘇南部管農センター管内で12月11日、正月料理講習会が阿蘇村で行われました。当日は女性部白水・長陽・久木野支部の部員約50人が参加。午前と午後に分かれて15品を調理しました。

久木野地区では、部員だけではなく地区の婦人部と合同で調理を行いました。特に、食材には地元野菜が使われており、担当職員は「こ

の講習会で腕に磨きをかけ、正月に向けてしっかり準備してほしい」と話していました。参加した部員は「他の部員とも交流できるいい機会なので、楽しく作る事ができた」と感想を語っていました。

今が旬！寒締めホウレンソウ



出荷作業に大忙しの関係者

一の宮選果場では寒締めホウレンソウの出荷がピークを迎えています。昨年9月から播種が始まり天候にも恵まれ、生産者の努力により順調に生育しました。九州内でも出荷が早く、例年に比べ降霜も多く、糖度も1月に入り10度を超え食味は申し分ありません。販売担当の大串J A職員は「自信を持って販売していきたい」と話していました。

阿蘇イチゴの定着を目指そう
販売目標は1億6000万円

■南部イチゴ部会■



力強くあいさつする村上部会長

J A阿蘇南部イチゴ部会は11月21日、生産者50人が出席し08年産南部イチゴ部会出荷査定会を南阿蘇村で行い、村上豊彦部会長が「阿蘇という世界的なブランドを生かした販売に力を入れていきたい」と力強くあいさつしました。

同部会では2年前より12月に役員が市場視察を兼ねて産地研修を行っており、レギュラー詰め(300g)を主軸とした出荷形態を取り入れ、市場または量販店の売場担当者と情報を共有化し、独自の販売展開をしています。

今年度は生産者26人(昨年比83

(%)で作付面積4.6ha(同85%)。品種構成は「とよのか」が23%、「さかほのか」が77%。08年産イチゴの販売目標は出荷数量48万6000パック(1パック300g)、販売金額1億6000万円、販売単価3200円となっています。

販売金額3200万円
前年を大きく上回る
■狭の草りんどう部会■



あいさつをする井野武美部会長

J A阿蘇中部管内の「狭の草りんどう部会」は12月5日、08年度産反省会を阿蘇市で開き、部会員や行政・市場・J A関係者ら40人が出席しました。

井野武美部会長が「今年度は箱単価が前年比94%と落ち込んだが、出荷ケース(前年対比106%)で

収量は伸びた。次年度はポリリウムアップと花痛みの少ない品物で単価を上げるよう努力しましょう」とあいさつしました。

今年度は前年に比べ農家戸数、栽培面積は変わっていませんが、出荷数量5.28ケース(同対比113%)、販売金額3200万円(同対比105%)と前年を大きく上回りました。

担当の大串J A職員は「新年度からは部会の出荷計画を速やかに市場等に連絡し、有利販売に努めたい」と抱負を語っていました。

買い控え等の影響で
前年実績を下回る
■中部キュウリ部会■

J A阿蘇中部キュウリ部会は12月9日、08年反省会及び総会を



あいさつをする阿蘇品春輝部会長

阿蘇市で開き、部会員・市場・J A関係者ら50人が出席しました。

08年は出荷数量約4万ケース(5kg)で、前年に比べ84%と前年を下回りました。阿蘇品春輝部会長は「今年度は台風の影響もなく順調に生産出荷ができたが、消費者の買い控え等の影響により、昨年の実績を大きく下回る結果となりました。次年度は有利販売と長期的な栽培に努めたい」とあいさつしました。

市場関係者からは「シーズンを通して安定した供給、また、品質的にも安定しており、夏場のキュウリの生産地としてありがたい」と評価を得ました。担当の井手指導員は「次年度の栽培計画を早め立て、計画的栽培に努めてほしい」と話していました。

08年、出荷数量下回り
今年度は有利販売を
■波野花卉部会■

J A阿蘇波野花卉部会は12月11日、08年反省会を阿蘇市で開き、部会員や行政・市場・J A関係者ら約30人が出席しました。

08年は出荷数量で42万本、前年に比べ77%と前年を大きく下回る結果となりました。佐藤徳雄部会長は「夏場の単価低迷等の影響により、



30人が出席した花卉部会反省会

昨年の実績を大きく下回る結果となったが、次年度は有利販売と長期的な栽培に努めたい」とあいさつ。また、市場関係者も「前売り情報を流してもらい有利販売に努めたい」と語っていました。

**前年並みの実績を達成
総販売高部門の笹原順子さんから
08年表彰も行っ**

Ⅱアスパラ部会Ⅱ

J A阿蘇アスパラ部会は12月12日、08年反省会及び総会を阿蘇市で開き、部会員や行政・市場・J A関係者ら90人が出席しました。08年は前年に比べ農家戸数で102%、栽培面積で104%、出荷数量で99%、販売金額で99%、平均単価で100%と前年並みの実

績を上げました。品質では前年より秀品の割合が2ポイントアップしました。笹原光司部会長は「夏の場の価格の低下が厳しかったものの、前年比100%の実績で、他の野菜と比べると実績は出ている」とあいさつ。

市場関係者からも「とても元気がある部会。また、消費者のニーズに応じた出荷がある」と評価をする意見が述べられました。

08年の表彰も行われ、J A表彰総販売高部門には笹原順子さんが輝きました。その他の部門(敬称略)は次の通り。▽総販売高部門Ⅱ西村豊治、笹原憲治、山部美加子▽栽培技術部門Ⅱ室治夫、佐藤春生、山部エツ▽技術躍進部門Ⅱ西村スイ子、斉藤義満、筑紫一雄。



あいさつをする笹原光司部会長

**生産者の所得向上を目標に
共販強化と連携に努めよう
Ⅱ中部Ⅲトマト部会**



あいさつをする白石忠幸部会長

J A阿蘇中部ミニトマト部会は12月17日、08年反省会及び総会を阿蘇市で開き、各部会役員や行政・市場・J A関係者ら45人が参加しました。白石忠幸部会長は「生産者の所得向上を目標とし、安心安全な農産物の生産、共販体制の強化や連携を図り、安定供給に努める。また、生産資材価格の高騰等で厳しい現況ではあるが次年度も頑張ります」とあいさつ。

本年産の販売情勢や実績、栽培経過・問題点、反省点等が各担当職員より報告され、部会員での検討が行われました。また、次年度は市場と連携を図り、有利販売を

目指すことを確認しました。笹原祥樹指導員は「計画や目標を12月中に定め、余裕を持った栽培準備をしたい。不安に思うことは何でも相談に来てください」と話していました。

**消費低迷の影響を受け
前年並みの出荷量となる
08年表彰も行われる
Ⅱ中部Ⅳトマト部会Ⅱ**

J A阿蘇中部トマト部会は12月19日、08年反省会及び総会を阿蘇市で開き、部会員や行政・市場・J A関係者ら100人が出席しました。

08年は出荷数量70万ケース(4kg・前年対比100%)、販売金額6億9千万円(同89%)と前年を下回りました。

森正義部会長はあいさつで「出荷量は前年並みだったが、夏場の単価安で大きく販売金額が下回り、消費の低迷の影響を受けた」と述べ、一方、市場関係者は「シーズンを通して安定した供給で、消費地として大変ありがたい。また、品質的にも安定しており、夏場のトマトの消費拡大に大きく貢献できたものと考えている」と評価をしました。次年度部会生産目標としては、部会平均で10a当り10t、総出荷量

(前ページから続く)

3600tを目指します。

08年の表彰も行われ、部門ごとの表彰者(敬称略)は次の通り。

▽総販売高部門Ⅱ日隈忠治、山本義輝、小代輝義、山本誠也、村山助雄
▽反当取量部門Ⅱ北里栄治、日隈忠治、岩本秀美、山内孝志、家入修一
▽努力賞Ⅱ洞田貫真也・亀井富士雄・甲斐柱史。



森部会長より表彰を受ける関係者の皆さん

阿蘇イチゴの定着を目標に 部会役員による品質査定会 Ⅱ南部イチゴ部会Ⅱ



J A阿蘇南部イチゴ部会は1月29日、同部会役員がイチゴ品質査定及び着色基準等について担当職員らと部会役員・担当職員合同の査定会を実施しました。当日出荷された品物をJ A職員が検査し、等級の境目の線引きについて役員と協議しました。同部会では春先のイタミ果に対するクレーム防止と、厳寒期の着色基準について品質査定を例年行っており、年々クレーム数は減っています。また2月5日にも中間検討会が開催され、出荷市場などの意見や末端の販売店の意見を聞き、春先のクレームゼロを目指しています。

村上豊彦部会長は「阿蘇という世界的なブランドを生かし、沢山

の消費者に美味しいイチゴが届くよう努力していきたい」と抱負を語っていました。

同部会では昨年より、役員が市場視察を兼ねて産地研修を行っており、レギュラー詰め(300g)を主軸とした出荷形態を取り入れ、市場または量販店の売り場担当と情報を共有化し、特徴のある販売展開をしています。(写真Ⅱ品質査定及び着色基準を協議する部会役員ら)

「大事に育ててね」 阿蘇市内の保育園・幼稚園 小・中学校へイチゴShinantaー Ⅱ中部園芸部会Ⅱ

J A阿蘇中部園芸部会は12月11日、産地消及び食育活動の普及促進を目的に、阿蘇市内28か所の保育園・幼稚園、小・中学校へイチゴのプランター苗(60cm幅3株)62個を寄贈しました。

贈呈式は部会役員・J A職員ら10人が参加して、阿蘇市役所で行われ佐藤義興市長に岩下明園芸部会長から目録とプランターが手渡されました。岩下部会長は「今の子供達は農産物とふれあう機会が少なくなっており、自分の目で成長を確かめ、確認することが産地消につながる」と語り、また、農家

も丹精込めて作っているのだから、皆さんも大事にしていきたい」とあいさつ。

佐藤阿蘇市長は「見た瞬間に苗のすばらしさにビックリした。子供達も、この苗を見て生き生きとした姿を感じるはずであり、スーパーで見たり食べるだけで、イチゴはこんな感じだと思ってるのだと実感してくれると思う。皆さんの気持ちは子供達だけでなく私たち大人もしっかりと受けとめながら、地域農業が良くなっていくように共に頑張りましょう」とお礼を述べました。

その後、プランターは中部営農センター指導員4人が手分けして、28か所の寄贈先に設置しました。



阿蘇市役所でイチゴのプランター苗を寄贈する役員

小学生が老人会の指導で
みさを大豆を収穫

II 青壮年部高森支部 II



めぐり棒を使い脱粒作業をする子供たち

J A阿蘇青壮年部高森支部では12月2日、高森中央小3年生42人と高森町老人会、(株)丸美屋が参加して大豆の収穫体験をしました。今回は特に老人会の協力で、昔ながらの大豆収穫の指導と手伝いをしてもらいました。子供たちは2組に分かれ、大豆の収穫と「めぐり棒」を使った脱粒作業を行いました。初めて使う「めぐり棒」に最初は戸惑っていましたが、老人会の手助けもありその後作業は順調に進みました。

脱粒終了後、老人会から「みんなの前に落ちていっている一粒の大豆も、みんなが大切に作った大豆です。一粒も無駄にしないようにしましょう」と話があり、子供たちは畑に落ちていた大豆を一粒ずつ丁寧に拾いました。今回収穫された大豆は、学校給食の「座前豆」にし、残った大豆は豆腐や納豆作りに使いました。

自分で育て、作ったものはおいしい
昔ながらの豆腐・納豆作り体験



J A阿蘇青壮年部高森支部は1月20日、高森中央小学校3年生42人とJ A阿蘇女性部・老人会・丸美屋が参加し、豆腐・納豆作り体験をしました。同小学校3年生が種まき、収穫した地大豆「みさを大豆」を使い、昔ながらの豆腐作りに挑戦。石臼で大豆をすり、すった大豆を煮て最後に布で豆乳とおからに分けました。丸美屋から豆腐作りの説明があり、児童らは豆乳ににがりを入れ、初めての豆腐

九州地区J A役職員バレー大会
J A阿蘇「初出場で準優勝」

12月6日、九州地区J A役職員バレーボール大会が宮崎県体育館で開催され、初出場したJ A阿蘇チームが見事、準優勝に輝きました。大会には12チームが出場。J A阿蘇チームは10名のメンバーと2名のマネージャーの有志で構成。

作りに興奮。おからは、女性部がおから煎りにし、みんなで試食しました。

次に納豆作りに挑戦。老人会が用意した「わらつと」に納豆菌をかけた大豆をわらの中に入れ、一定の温度で保存し約3日間で作れ上がりしました。体験した児童からは「自分で育て、作った豆腐はいつも食べる豆腐よりも甘くておいしい」となどの感想が聞かれました。



石臼で大豆をすり作業に注目する子どもたち

予選リーグではJ A糸島(福岡)とJ A日向(宮崎)と対戦し双方に2対0でストレート勝ち。準決勝ではJ Aいぶすき(鹿児島)をストレート勝ち。決勝戦はJ A宮崎中央。1セット目は落とすものの2セット目はジュースの末、31対29で競り勝ちましたが、3セット目を落とし惜しくも準優勝。

時松誠也監督は「大会前の猛練習の成果もありチーム一丸となった結果の準優勝。この大会を通じJ A阿蘇の職員同士はもちろん、九州各県の役員との交流ができたことも大きな収穫でした」と話していました。



来年は優勝の期待大のJA阿蘇チーム

楽しい思い出いっぱいできたよ。また来年も会おうね!!

平成20年度「まるごとあそびスクール」閉校式

平成20年5月から始まった「まるごとあそびスクール」の閉校式が12月13日、JA阿蘇中部営農センターで行われ、生徒や関係者ら約60人が参加しました。

閉校式の前には食育授業としてJA女性部の協力で、カレーといきなり団子の調理実習が行われました。カレーの材料作りで、ジャガイモやタマネギ、ニンジンなどの皮むきにも、参加者はなれた手つきでスムーズに作業を行っていました。いきなり団子の調理では、皮を薄く延ばす作業に少し苦勞していた様子でしたが、サツマイモと小豆あんを包み込んで大小いろいろな形の団子を作りました。出来上がったカレーは昼食会で食べ、生徒たちの中には何回もお代りをする子供もいました。

閉校式では校長の中尾雄二組合長があいさつ。その後、修了証書授与を行い、続いてスクール代表生徒の酒井慧巳君が楽しかった思い出や感想を述べました。生徒らは「また、来年も参加したい」とにこやかに感想を語っていました。



平成20年度「まるごとあそびスクール」のお友だちとJAのお兄さん・お姉さん

理事会・監事会報告

■平成20年度第12回理事会

日時 平成20年12月16日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

JA阿蘇役員コンプライアンス研修会開催

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

委員会報告(経済専門委員会・債権管理委員会)

11月末実績について

1)平成20年度上半期監事監査報告書について

2)信連と農林中金の最終統合に伴う農林中金との契約締結について

3)熊本県条例検査書の交付について

4)平成20年度資産査定要領(案)について

5)貸出金について

6)桑の葉茶のネーミング・デザイン募集について

7)南阿蘇村村民畜場取得計画(案)について

報告事項1 平成20年度財務諸表等監査(期中監査)の実施について

報告事項2 平成20年度導入家畜等欄卸監査実施について

報告事項3 年末年始の業務等について

報告事項4 JA共済不祥事件措置基準について

報告事項5 平成20年度JA共済コンプライアンス点検結果及び改善方針の概要について

報告事項6 役員研修について

4. 閉会

■平成20年度第13回理事会

日時 平成21年1月29日午後1時30分

場所 一の宮中央支所会議室

1. 開会

2. 組合長挨拶

3. 協議事項

委員会報告

(金融共済専門委員会 経済専門委員会・総務専門委員会)

12月末実績について

1)農林中央金庫の自己資本増強について

2)JAマイカーローン「輪輸スプリングキャンペーン2009」等に伴う金利対応について

3)阿蘇地域肥料・燃油価格高騰対策組合規約(案)について

4)貸出金について

5)平成20年度畜産近代化リース事業借受申請について

6)JA阿蘇桑の葉茶デザイン・ネーミング募集について

7)県条例検査回答書(案)について

8)J-PLAN導入について

報告事項1 役員研修について

報告事項2 余裕金運用状況報告について

報告事項3 農林中央金庫と熊本信連の最終統合後の電算システム障害対応時に係る要領・手続きの制定について

報告事項4 南阿蘇村村民畜場取得報告について

報告事項5 JA阿蘇総合3ヵ年計画の進捗状況について

報告事項6 JA阿蘇プロジェクトの最終取りまとめ報告について

報告事項7 肥料・燃油価格高騰対応緊急対策事業取り組み実績について

4. 閉会

●平成20年度第8回監事会

日時 平成20年12月5日

場所 本所会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1)平成20年度上半期事務監事監査報告書(案)について

2)県条例検査書交付について

3)平成20年度導入家畜等欄卸監事監査実施(案)について

4)固定資産現地確認について

5)無通告による監事監査について

6)その他

●平成20年度第9回監事会

日時 平成21年1月16日

場所 高森中央支所

1. 開会

2. 挨拶

3. 議題

1)平成20年度導入家畜等欄卸監事監査実施について

2)その他



■JA阿蘇職員異動のお知らせ■

氏名	新 辞 令	発令年月日	旧 辞 令
江口 昌代	営農部事業課事業係	平成21年2月2日	中部営農センター事業課事業係
小林 勝人	高森中央支所購買課高森給油所長	平成21年2月2日	高森中央支所購買課高森給油所長代理
中村 仁	小国郷営農センター直販事業課ヨーグルト工場係	平成21年2月2日	小国郷中央支所購買課購買係

新型インフルエンザの

大流行とは？

ほとんどの人が抵抗力(免疫)をもたず、感染する力の強い新型ウイルスの出現が心配されています。実際に出現すると、世界中で爆発的な感染を引き起こし、私たちの健康だけでなく、経済的な活動をはじめとする社会機能にも大きな被害を与えるかもしれません。

(被害想定はむずかしい)

新型インフルエンザウイルスはまだ発生していません。そのため、感染のしやすさや症状の程度はまだ分かりません。ただし、過去の例を参考にして想定することは出来ます。

※過去の大流行(スペインインフルエンザ等)を参考にした想定

国民の
4人に1人が感染

最大**64万人**が死亡
(平成19年の日本の死亡者数は約111万人)

(社会への影響は？)

バスや電車を動かす人、電気や水道、ガスなどを供給してくれる人、商店の店員やさまざまな会社で働く人などが、新型インフルエンザにかかって仕事が出来なくなると、私たちの日常生活は麻痺するおそれがあります。そのため、国、自治体、事業者、家庭や個人などが、それぞれの立場で準備しておくことが大切です。





一人ひとりにしてほしいこと

自分の健康も家族の健康もひとりでは守れない

新型インフルエンザは人から人へとうつっていきます。
 ですから、自分ひとりだけで健康を守ることはむずかしく、
 家族や友人、職場の仲間たちと一っしょに、協力し守る必要があります。

〔今からできる準備〕

◎食料・日用品を蓄える

最低2週間は買い物なしで生活できるように
 新型インフルエンザが流行している時期は、できるだけ自宅に
 とどまることがすすめられますが、そのためには保存できる食
 物や毎日使うものの備蓄をしておきましょう。

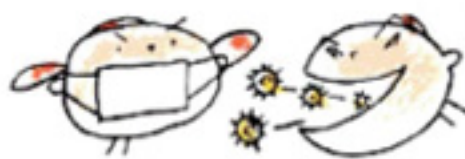
◎正しい衛生習慣を身につける

習慣にすれば簡単にできること
 毎年冬にはやるインフルエンザには、かからないための予防法
 があります。これが新型インフルエンザの予防にも、それなりに
 役立つと考えられます。具体的には、体の調子を整えておくこ
 と、外出から帰ったらうがいと手洗いを行うことです。



◎マスクの着用

人にうつさないためにマスクの着用を
 マスクはウイルスが体のなかに入ってくるのを、ある程度は防ぎ
 ますが、そのいちばんの働きは、感染してしまった人が着用する
 ことで、ほかの人への感染を防ぐことです。熱やせき、くしゃみ
 といった症状があるときは、マスクをしてください。



◎せきエチケット

せきやくしゃみは見えない唾液を飛ばしている！
 マスクをしていないときは、咳やくしゃみをする時は、ティッシュな
 どで口と鼻をおおい、顔を他の人には向けずに、できれば1メー
 トル以上離れましょう。鼻汁、痰などを含んだティッシュはすぐに
 フタ付のゴミ箱に捨ててください。



◎助けあいの輪をつくっておく

流行期に1人きりでは困る人を助けられる
 ように考えておきたい

新型インフルエンザが流行すると、1人暮らしのお年寄りなど
 は、まわりの人が助けてあげる必要があります。そのための連絡
 法などは、今から確認しておきましょう。

◎鳥インフルエンザへの注意

弱ったり死んでいる野鳥には絶対さわらない！
 鳥インフルエンザの人への感染は、まれに起きています。これ
 は、鳥インフルエンザで死んだ鳥や鳥インフルエンザにかかって
 いる鳥に直接触れたり、あるいは毛をむしる、調理をするといっ
 た接触のあった場合に限られます。死んだり弱ったりしている野
 鳥や鳥には、直接触れることのないようにしてください。

●詳しい情報は下記ホームページをご覧ください。

<http://www.mhiw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansennhou04/index.html>

厚生労働省 新型インフルエンザ対策推進室

桑の葉7割と緑茶3割をブレンド

JA阿蘇の新商品のお茶、「阿蘇くわの葉茶」に決定 デザインは、阿蘇の山々を背景に着物姿の女性

JA阿蘇が販売を計画している“桑の葉”と“緑茶”を使用したペットボトルの商品名とデザインが決まりました。商品名は「阿蘇くわの葉茶」と決定。公募で集まった商品名196点、デザイン30点の中から、職員による審査や経済専門委員会、専門家の意見も参考に1月29日の理事会で最終決定しました。

決定した商品名の「阿蘇くわの葉茶」は、阿蘇という地名や新商品の一番の特徴となる「桑の葉」を使用したお茶であることが、一目で消費者に分かることが評価されました。また、デザインでは桑の葉の形の中で、阿蘇の山々を背景にお茶を飲む着物姿の女性を描いた作品が決まりました。

JA阿蘇では「No.1宣言」のもと、「安心・安全」な農畜産物の提供と組合員・利用者への満足度No.1を目指し、阿蘇の農作物を活かした商品開発を行っており、この「阿蘇くわの葉茶」は、阿蘇で生産された桑の葉7割と緑茶3割をブレンドした商品で、本年5月を目標に製品化を進めています。ペットボトルは500mlで、JAを中心に年間約十万本の供給を見込んでいます。

なお、審査結果は次のとおり(敬称略)▽ネーミング最優秀賞＝「阿蘇くわの葉茶」小崎貴弘(熊本県鹿本郡)、優秀賞＝「阿蘇の雄天桑茶」市川菜羽(愛知県岡崎市)▽デザイン最優秀賞＝村上明日香(熊本県宇城市)、優秀賞＝小柴雅樹(兵庫県宍粟市)



新商品「阿蘇くわの葉茶」の
ペットボトルに使用されるデザイン

親子で切り干し大根づくり 女性部高森支部が指導



JA阿蘇女性部高森支部は12月5日、高森中央小学校の授業参観に合わせ、同小4年生47人と保護者に参加し、の切り干し大根づくり体験会を行いました。材料には9月に児童が種まきした「干し理想大根」で、12月に収穫し教室で5日間干したものを使いました。先ず女性部より切り干し大根を使った料理や栄養分などの説明があり、実際の調理に移りました。教室では親子が慣れない手つきで、協力しながら切り干し大根作りに挑戦する姿があらここらで見られました。

今回作った切り干し大根は児童が教室で管理し、出米上がった切り干し大根は給食で煮物やきんぴらなどにして食べる予定です。

